

あお

もり

県民
だより

2014
12月号
No.148

暮らし充実、青森県

酒造りにかける大きな夢と 大好きなふるさとで暮らす喜び

私は、1775(安永4)年に創業した蔵元の9代目です。学生時代は東京で暮らし、その後も都内を拠点に自社の日本酒の営業活動を行っていました。

ちょうど、その頃、蔵を取り巻く状況が大きな転換期を迎え、父や社員たちは、蔵の存続と誇り、そして、地元・八戸への思いを込め、命がけて「陸奥八仙」ブランドを生み出しました。「父たちの思いの結晶である新ブランドを、自分の手で全国に届けたい！八仙の魅力を地元八戸から発信したい！」。そう決意し、帰郷しました。現在、夫婦で2人の子どもを育てながら、酒米、仕込み水、酵母など県産の

材料にこだわった「オール青森」の酒造りを行っています。

だれもが皆、ふるさとの原風景を持っていると思いますが、八戸で生まれ育った私の原風景は、みなどの活気や漁火が揺れる光景です。県外出張から戻り、みなが見えてくるとホッとすると、大好きなふるさとに家族が待つ場所がある幸せ、帰る家がある幸せを感じます。「いつか青森を代表する蔵になって、全国から八戸に人を呼びたい！子どもたちが誇りを持てるふるさとをつくりたい！」。そんな夢を描いています。

駒井 秀介

(八戸酒造株式会社専務取締役)

日々の生活の中の、海、山、畑や田んぼが広がる風景、食卓に並ぶ新鮮でおいしい食事。何気ない日常の中にも、実は青森県が持つ魅力があふれています。

このように、自分たちでは小さなかなが気付くことができませんが、本県には自然、食、歴史、文化、産業・技術や人材など、私たちの生活の一部となり支えてきた青森ならではの魅力がたくさんあります。

県では、県民の皆さんとともに、「ここで生きていきたい！」と思えるような、魅力あふれる青森県づくりに取り組んでいきます。

青森県基本計画

未来を変える挑戦

～強みをとことん、課題をチャンスに～

CONTENTS

目次

特集：人口減少克服プロジェクト ①～⑤

申吾のほっとコラム……………⑥

ちょっとした工夫で、健康ごはん！

女性の力で企業や地域を元気に！……………⑦

青森県職員の給与と職員数のあらまし

アナタの声を県政へ

工藤所長のソウルからアンニョンハセヨ～…⑧

あもりインフォメーション

平成26年12月1日発行(偶数月1日発行)

表紙：八戸酒造株式会社 駒井秀介さん(右)と長男の龍之介くん
妻の優美さん(左)と長女の陽菜乃ちゃん
(八戸市：電話 0178-33-1171 ホームページアドレス <http://www.mutsu8000.com/> メールアドレス info@mutsu8000.com)

「青森で生きる」豊かさ・素晴らしさ。

大切な未来を育みながら

青森で生きる

徳 島県出身で、結婚後東京で暮らし、青森市に引っ越してきました。青森に来て最初に驚いたのは、食材の豊かさです。自宅近くの市場で朝市が開催されているんですが、野菜や果物、魚介類、山菜など、どれをとってもびっ

くりするほど安くて新鮮、そしておいしい！それに、街の中心部からちょっと足をのばせば、山や海、温泉があつて、お金をかけずに自然を満喫できる場所がたくさんあるんですね。「青森は住みやすく子育てにもってこいだよ」って、徳島の実家に電話をしてしまったくらいです（笑）。

ヨガだけじゃない子育てを楽しむ場

青 森に来た当初は妊娠中だったので、気軽に外に出かけることも仕事をすることもできず、友達もなかなかできなくて寂しい思いをしていました。そんな時、たまたま青森で知り合った方がスタジオ施設を紹介してくれたんです。東京では一般向けのヨガクラスで教えていましたが、青森では自分が妊婦だったこともあり、最初は「マタニティーヨガクラス」、出産後はお母さんと赤ちゃんが一緒に楽しめる「産後ヨガクラス」を

スタートしました。現在、一般向けクラスをはじめ定期クラスを7つ、その他不定期で大学の市民講座や各種団体のイベントなどでヨガを教えています。産後ヨガクラスは、体を動かした後にお母さん同士で子育ての悩みなどの情報交換やおしゃべりをするので、お母さんたちがリラックスできる場を目指しています。私も皆さんから子育てのアドバイスやヒントをもらい、



【インタビュー】

Blu-Mom Yoga インストラクター

おまたまき **小俣 真紀さん**

(青森市：ホームページアドレス <http://blu-mom-yoga.vpweb.jp/>)

一緒に楽しんでいます。参加しているお母さんたちを見てみると、日々の小さな悩みはあっても、それをほるかに上回る子育ての喜びや楽しさが伝わってきます。



人間の土壌を育み 五感を磨いてくれる場所

青森の人たちは一見シャイで口数が少ない印象ですが、おおらかで情に厚い人が多いですね。子連れで街を歩いているとよくおじいちゃん、おばあちゃんの声が聞こえるので、息子はおじいちゃん、おばあちゃんが大好きです。息子が赤ちゃんだった頃は、冬に薄着をさせていると、何人ものおじいちゃん、おばあちゃんが寄ってきて「風邪ひくべ」と息子の足を手であたたく包んでくれたものです。東京では考えられないですが、周囲の皆に子どもを見守ってもらっているという安心感があります。おじいちゃん、

おばあちゃんをはじめ、地域の人に育ててもらっているんだなあと感じます。私も最初そうだったように、妊娠中や赤ちゃんと一緒にうちは、なかなか外出できずに家の中で一人で悩んだり寂しい思いをしたりしているお母さんも多いと思います。そのようなお母さんのためには、子どもと一緒に参加できて、リラックスできる、そして友達も作れる場所が必要。ヨガクラスを開催している県の施設「アピオあおもり」では、子育てに関するさまざまな情報発信やイベント開催など、人と人がつながる「場・空間」「きっかけ」が提供され、青森での子育ての拠点となっているありがたい存在です。

現 在3歳になる息子は自然が大好き。りんご狩りや栗拾い、ホタルの観察や釣り堀、田植えや稲刈りなど、親子でいろんな体験に積極的に出かけています。

地元の人には、当たり前すぎてその価値に気付いてないかもしれませんが、豊かな自然や人に恵まれた青森は、子どもの感性を養い人間の土壌を育てるのに最適な環境だと感じます。小さな子どもは五感を磨くのに、こんなにいい環境はないですよ！日常の遊びや生活の中で五感を駆使し、青森の自然に心を磨いてもらうことで、自然に謙虚に、そして人にもやさしい、感性豊かな子になってほしいですね。

今後、転勤で青森を離れたとしても、定年後にもう一度住みたい。それくらい青森が大好きなんです。

新たな道を切り開いて 青森で生きる

私 は三沢市で生まれ育ち、大学卒業後、仙台市内にあるITベンチャー企業でエンジニアとして働いていました。

大手プロバイダのサーバの運営・管理など、何十万人、何百万人をサポートする仕事はやりがいがありましたが、数年が経つうちに不特定多数の知らない人たちにサービスを提供するよりも、顔の見える人たちに喜んでもらいたいという思いが強くなっていきました。

そんな矢先、2011年3月に起きた東日本大震災。このことを機に、家族の大切さ、ふるさとへの愛情を再認識しました。「震災後、大きな変化を迎えている東北の中で、今こそふるさと青森に貢献したい!」、そんな思いから2012年4月、三沢市にUターンし起業しました。

まずはチャレンジ! 東北で唯一の会社設立

現 在、県内や東北各県、東京の企業を対象に、インターネット上にデータを保管してさまざまなサービスを提供するクラウドという新しい仕組みの導入支援や運用代行を行っています。クラウドに特化して、そのようなサービスをを行う会社は東北で唯一であるという強みを生かし、複数の会社と提携しながら業務に当たっています。

起業時に一番不安だったのが、地元での人脈が乏しいこと。IT業界でも人脈と信用は事業成功の大きなかぎとなるからです。そこで、起業して間もない頃、

県主催の創業・起業支援制度合同説明・相談会に参加し、**※**インキュベーション・マネジャーから親身にアドバイスをいただきました。

また、青森県では他県にさきがけてIT企業同士や他産業との連携の場づくりを推進し、セミナーやマッチングなどの各種支援も行っており、参加したことで県内のネットワークがさらに広がり、実際に新たな仕事にもつながりました。

両 親が専業農家でにんにくやごぼうなどを作っているのですが、大きさや形などが悪いというだけで廃棄されている規格外の野菜をどうにかしたい。その思いで、ITと農業を結び付け、**※**インキュベーション・マネジャーと相談しながら「ぶきいく

野菜.com」の商標を取得し、インターネットでの販売も行っています。

今でも何か分からな**※**いことがあるとインキュベーション・マネジャーに相談しており、とても心強い存在です。

※下部の「用語の解説」をご覧ください。

つながりが生み出す ならでの可能性

今 の私の目標は、現在事業の主体となっているIT/クラウドという新しい産業で地域への貢献や雇用の創出をしていくとともに、祖父の代にゼロから開拓し、父の代で大きく拡大した地域の農業を次の時代にもつなげていくことです。

人、自然や食などの魅力あふれる青森県にはまだまだビジネスの可能性や選択肢がたくさんあると思います。例えば、ITと農業を結び付けたり、都会にはない青森ならではの強みをうまく生かし、人と人、人とモノ・コトがつながることでもっと青森が面白くなるはずだと思います。面白くしていきたいと思っています。たくさんのつながりを生み出しながら、楽しくやりがいのある仕事を作り、自分の生まれ育った地域を子供たちの世代にとって魅力的な場所にしていくのが、自分の義務だと思っています。



【インタビュー】株式会社ヘプタゴン
代表取締役 **立花 拓也**さん
(三沢市：ホームページアドレス <http://heptagon.co.jp> メールアドレス info@heptagon.co.jp)

安心して子どもを 産み育てられる環境づくり 「子育てに最適の地あおもり」の実現へ

子どもたちは、未来の青森県づくりの原動力であり、その子どもたちを産み、育て、成長させることは、未来を創り上げることです。

県では、結婚や子育てをみんなで支える地域社会づくりに取り組むとともに、次代を担う子どもを心身ともに健やかに産み育てられる環境づくりを進めています。具体的には、結婚・妊娠・出産・子育てに前向きになれるよう、社会全体で応援する気運を醸成するためのポジティブキャンペーンの実施や、「あおもり出会いサポートセンター」による結婚を希望する独身男女の出会いの場の創出を行っています。妊娠・出産への支援としては、妊産婦への相談支援、特定不妊治療(体外受精及び顕微授精)費の助成、周産期医療体制の充実などを行っています。

また、子育て支援として、多様な働き方に対応した保育サービスや放課後児童対策の充実による仕事と子育ての両立のための基盤整備を進めるほか、「青森県男女共同参画センター」と「青森県子ども家庭支援センター」の複合施設である「アピオあおもり」において、男女共同参画社会と子育て支援社会を実現するため、子どもと家庭に関する相談や学習・体験、子育て支援関係者や団体への活動支援、さらには、子育て応援わくわく店・商店街の登録・普及、親子に優しい街マップによる情報提供なども行っています。

そして県では、子育て支援を強化するため、現在、次世代育成支援行動計画「わくわくあおもり子育てプラン」の改訂を進めているところです。

今後も社会全体で子育てを支え合い、県民の皆さんが安心して結婚し、子どもを産み育てられる「最適の地」青森県を目指し、全力で取り組んでいきます。

【問い合わせ先】
電話 017-734-9301

創業・起業を希望する方を 支援しています!!

人口減少が続く中で、本県の事業所数、従業員数は減少し、地域経済の停滞が叫ばれて久しい状況が続いています。民間活力を高めていくためには、開業率を引き上げ、雇を生み出し、産業の新陳代謝を進めていくことが必要であり、創業・起業の促進は、地域経済の活性化や新たな雇用機会の創出につながる重要な施策です。

このため、県では、市町村や商工団体と連携しながら、創業支援の専門家である「インキュベーション・マネジャー」を県内各地に派遣し、創業実現まで、創業・起業を希望する方を二人三脚できめ細かに支援しています。

また、創業・起業希望者の掘り起こしを目的とした「創業・起業支援制度合同説明・相談会」を県内各地で開催しており、国・県・商工団体等関係機関からの支援制度の説明や、個別相談を実施し、「創業・起業に興味、関心がある方」から「創業・起業して間もない方」まで幅広くご参加いただいているほか、創業・起業意識の醸成とビジネスプラン作成のノウハウ習得を目的とした「あおもり起業家養成研修」の開催や、地域資源を生かした、あおもり発の新たなビジネスでの創業・起業を応援する「ビジネスプランコンテスト」の開催等により、創業・起業を希望する方々を積極的に支援しています。

さらに、今年度からは創業・起業に係る事業を大幅に拡充し、若年者やシニア、Uターン希望者を対象とした創業・起業の意識醸成等にも取り組むなど、創業・起業の促進による地域経済の活性化や新たな雇用機会の創出を通じて、本県の人口減少の克服につながるような仕組みづくりを進めています。

【用語の解説】

※インキュベーション・マネジャーとは、日本ビジネス・インキュベーション協会(一般社団法人JBI)が認定する創業・起業支援の専門家であり、県では、公益財団法人「あおもり産業総合支援センター」に配置している。その他、県内3市青森・弘前・八戸の創業支援拠点等でインキュベーション・マネジャーによる創業・起業支援が受けられる。

【地域産業課】
電話 017-734-9374

最高のフィールドを生かして 青森で生きる

「うせ農業をやるなら、飛びぬけたことをやりたい！地域の将来を見据えた新しい農業の形を目指したい」。そんな夢を抱き、2004年、有限

会社白神アグリサービスを設立しました。鱈ヶ沢町にある70ヘクタールの農場では、米、りんご、大豆、毛豆、ブルーベリー、さくらんぼなどの作物を栽培してい



【インタビュー】有限会社白神アグリサービス

取締役 木村 才樹さん
(鱈ヶ沢町)

【インタビュー】有限会社白神アグリサービス

代表取締役 木村 農也さん
(鱈ヶ沢町)

ます。長男である私・才樹と、四男の農也、それに、新卒を含めた7人の社員と力を合わせながら農産物の加工や農作業の受託のほか、りんご剪定枝などを利用したバイオマスエネルギー事業、グリーン・ツーリズムなど、地域資源を活用したさまざまな事業に取り組んでいます。

また、農也が、県の農業先進国視察事業や、若手農業トップランナー塾に参加したことで広がった、同じ志を持つ県内の若手農家や県内外のネットワークを生かして、誰にもまねできない新たな挑戦を続けていきたいと思っています。

首都圏の学生と農業を通して互いの課題解決

企業 業や学生グループなどの団体に田んぼのオーナーになってもらう

「みんなの田畑みんなたばー」にも取り組んでいます。大学生版「みんなたばー」では、現在、東京大学、日本女子大学、法政大学、弘前大学の学生が定期的に来ています。学生たちは、農業に癒やしと人生の活路を求め、こちらにとっては、学生たちが労働力となりお客さんとなり、さらには営業マンにもなる。そして、実際に農業体験をするからこそ、農業の素晴らしさと価値を正しく理解して、うちのお米などを市場価格よりも高い価格で買ってくれます。このように農業を通して、お互いの課題解決につながっていると思います。

「こを訪れた学生はみんな、「空が広い」といいます。そして、自然、ここに生活している人たちが、暮らしそのものが好きだと言ってくれます。学生の中には、大学卒業後も家族を連れて遊びに来たり、中には東京から青森に移住して就職した子もいます。」



みんなたばでの農作業

岩木山の見える地で引き継いでいく

20年以上前から地元の小学校にりんご園を提供し、子どもたちにりんご園を作ることから、市場に出荷するまでを授業の一つとして教えてきました。このことを通して、子どもたちには、青森の農業で「生きる力」を身に付けてほしいと考えています。

白 神山地をはじめ、海・山・里・川、全てに恵まれているこの辺りは、縄文遺跡がたくさん発掘されています。

つまり、私たちが暮らしている、鱈ヶ沢町建石地域は、その時代から人々が安心して暮らすことができる場所ってことなんだと思うんです。そして、なんと言ってもここ建石から見る岩木山が一番きれいな。この一番きれいな岩木山が見える、この最高のフィールドを子どもたちに残していきたいですね。

農山漁村の持続的・自立的発展に一緒に取り組みましょう。

県では、農山漁村において、地域資源を生かして、地域全体で付加価値を創出し、雇用を生み出していく、「農山漁村の『地域経営』」を推進しています。

この取組では、地域の農林水産業の担い手となる「生産者」や「法人」、「集落営農組織」などを中心に、農地や農山漁村環境の維持、地域資源の活用、加工・食品産業等との連携、女性・高齢者の活躍の場づくりなどを進めています。

このことにより、農山漁村の6次産業化などを図るとともに、雇用の確保・拡大、若者の定着促進、教育、福祉など地域コミュニティ機能維持にも貢献していくことを目指しています。

『地域経営』では、地域自らが主体的に、地域の将来のあるべき姿を見据えて行動することが大切です。このため県では、「地域の担い手は地域が育てる」取組を支援しています。

さらに、意欲的な若手農業者を対象に経理やマーケティング力を高める「若手農業トップランナー塾」を開講し、自立した地域農業の実現と、それを将来世代へと引き継いでいく力強い人材を育成しています。

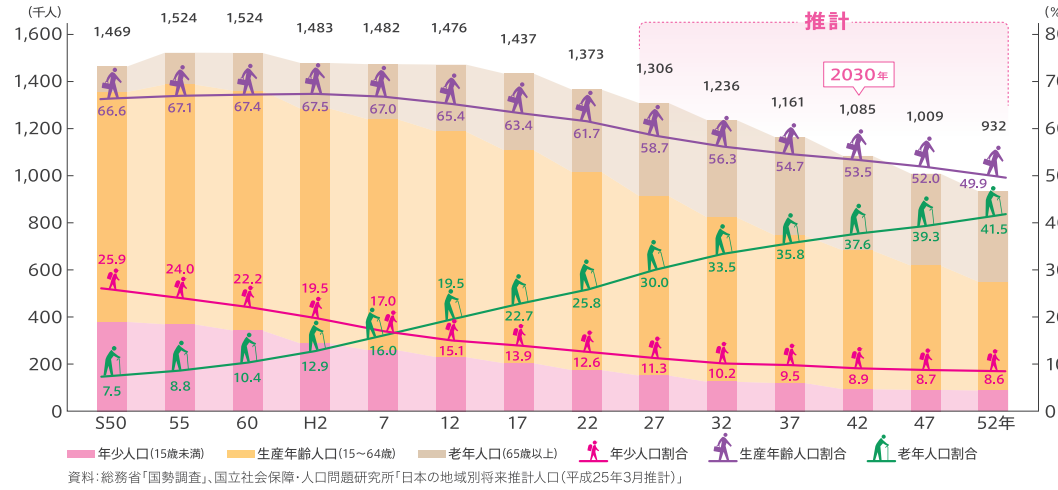
詳しくは、県庁HP「地域経営」Q検索

円構造政策課

電話 017-734-9463



年齢3区分別人口・人口構成割合の推移と将来推計(青森県)



人口減少克服プロジェクト

本県の人口減少率は全国ワースト2位

本県の人口は、昭和58年をピークに減少が続いており、平成22年国勢調査では137万3000人と前回調査(平成17年)と比較して6万3000人減少し、減少幅が過去最大となりました。国立社会保障・人口問題研究所によると、平成52年の本県人口は93万2000人と推計されており、減少率は全国で2番目に高くなっています。

本県の人口減少は、死亡数が出生数を上回る自然減と、転出者が転入者を上回る社会減の2つの要因により進行しています。特に、進学や就職を契機とする若年者の流出はこれから出産・子育てを迎える世代の減少を招き、人口減少を加速させる大きな要因となっています。

人口減少は、労働力人口の減少、消費活動の低迷、地域コミュニティ機能の低下など、本県の社会経済に様々な影響を及ぼすことから、人口減少のスピードを少しでも緩やかにするとともに、人口減少社会への対応を着実に進めていく必要があります。

青森県の未来を変える挑戦

「人口減少克服プロジェクト」課題をチャンスに

今年4月からスタートした「青森県基本計画 未来を変える挑戦」では、「強みをとことん、課題をチャンスに」をコンセプトに、3つの「戦略プロジェクト」(「人口減少克服」「健康長寿県」「食でとことん」)を設定しました。その第一に「人口減少克服プロジェクト」を掲げ、全庁一丸となった取組を進めています。また、他の2つのプロジェクトも、「健康長寿県プロジェクト」は平均寿命の延伸により生産と消費が生み出される面から、「食でとことんプロジェクト」は内発的・持続的な雇用を創出する面から、いずれも人口減少克服に寄与することとして、連動した取組を展開しています。

プロジェクトの3つの柱

1 人口減少社会においても持続可能な地域をつくる

人口減少、少子化、高齢化の進行により生じる地域課題に対応するとともに、地域が主体となった取組を推進することにより、持続可能で元気な地域づくりを進めています。

【主な取組】

- ◎ 農山漁村「地域経営」担い手育成システム確立促進事業
- ◎ 集落経営再生・活性化事業
- ◎ 西北型空き家予防・活用システム検討事業

2 人口増加につながる仕組みをつくる

結婚支援や働きやすい環境づくり、若年者の雇用場の確保、県外からの人材誘致など、人口増加につながる仕組みづくりを進めています。

【主な取組】

- ◎ おももり出会い・結婚応援事業
- ◎ 若年者人材確保・定着促進支援事業
- ◎ 男女が共に働き続けられる社会づくり推進事業

3 交流人口を増やす仕組みをつくる

一定人口が減少する中で、観光やビジネスなど県外からの来訪者の県内での滞在時間を増やすことにより、県内の消費額増加や所得向上を図るため、おもてなしの向上や国内外への戦略的な情報発信などを進めています。

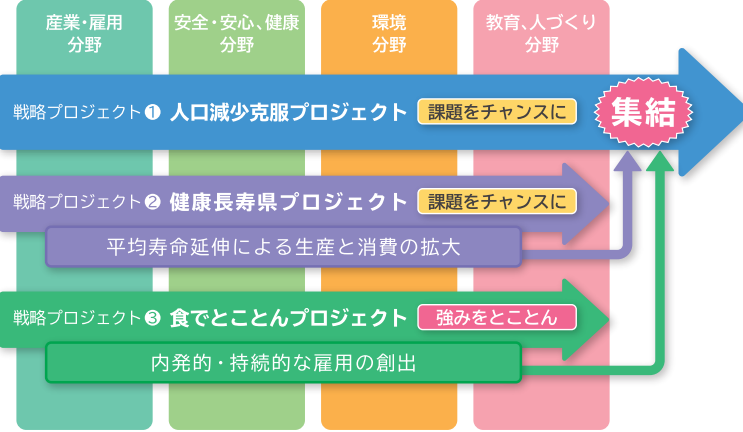
また、平成27年度末に北海道新幹線新青森・新函館北斗間の開業を迎えることから、気運醸成や開業効果獲得の

ための取組を進めています。

【主な取組】

- ◎ 北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業関連事業
- ◎ 青函サイクル・ツーリズム魅力発信事業
- ◎ 観光おもてなしブラッシュアップ事業

3つの「戦略プロジェクト」の連動した展開



都市部から地方へ「まち・ひと・しごと創生」の動き

国においては、都市部から地方への新しいひとの流れをつくり、若い世代が安心して結婚・出産・子育ての希望をかなえることができる「まち・ひと・しごと創生」の検討をスタートさせました。県としても、こうした国の動きや市町村などと連携しながら、基本計画に掲げる3つの「戦略プロジェクト」を始めとした取組を進めることなどにより、県民の皆さんと青森県の持つ価値を改めて共有し、「買ってよし、訪れてよし、住んでよし」の3拍子そろった、魅力あふれる青森県を実現していきます。

ソーシャルメディアを活用した広報を進めています!

これまで広報を目にする機会がなかった方にも見ていただけるよう、ソーシャルメディアを積極的に活用した広報に取り組んでいます。

青森県の最新情報だけでなく、青森県内のヒト、モノ、コトに注目しながら、いろいろな話題を紹介します。

青森県庁のインターネットテレビ番組
A-Stream 毎週 火・金曜日 12:20-12:50
http://www.ustream.tv/channel/a-stream-aomori

内容
・青森県の最新情報を紹介する「県庁なう」
・青森県職員が自分の仕事や仕事に対する思いを語る「マイアオモリ」
・「奥津軽いまべつ駅」開業への取組を紹介する「奥津軽いまべつナウ」
・青森県の食の魅力や人の魅力を紹介する取材企画VTR等

Ustream でこれまでに放送したA-Streamの内容を見ることができます。
(https://www.youtube.com/user/AomoriPref/)

Facebook 青森県広報聴取課公式 (https://www.facebook.com/AomoriPref.koho)

Twitter
・青森県庁公式 Twitter アカウント (@AomoriPref)
・青森県広報聴取課公式 Twitter アカウント (@aomorist)

A-Stream QRコード

12月の「人口減少克服プロジェクト」関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送時間
青森放送	大好き、青森県。	12月14日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	12月6日(土) 18:55~19:00
青森朝日放送	こんにちは、県庁です。県職員が生解説	12月1日(月)「おしゃべりハウス」(10:00~10:55)内で放送
青森朝日放送	メッセージ 3回シリーズでお届け	12月6日(土) 12月13日(土) 12月20日(土) } 9:30~9:35

「ゆりかご」を守ろう

青森県知事 三村 申吾

全国の農業産出額が減少する中、東日本大震災前の平成22年と平成12年とを比べたとき、プラス成長をしているのは、わが青森県を含めて4県しかない。本県の伸び率は全国トップであり、また農業産出額そのものも平成24年まで9年連続東北1位の状況にある。

いち早く、攻めの農林水産業を戦略的に推進し、例えば大手量販店分だけでも、平成18年度に156億円だった通常取引額を最大時313億円まで伸ばすことができたわけだから、おのずと成長につながってくることは想像に難くないが、実はもうひとつの成果も生まれている。

農業者の平均年齢でも、青森62.6歳は、東北では他県より3~4歳も若く全国で2番目に若いのだ。

新しく農業にチャレンジしてくれる人たちも増えているという状況だが、特にUターン等の方々が激増していることは、大変にうれしい状況である。

そういった彼らと、若手農業トップランナー塾での講義やAMT（青森県若手生産者まごころ伝え隊）の活動の場、そしてラジオ番組等で話をさせていただくが、志の高さと生真面目に取り組む姿勢に、何度も感涙させられている。

関係者や県庁のスタッフと、地道にトップセールスを国内外に積み重ね、販路開拓や商談システム、青森を応援してくれる人間関係を

申吾の ほっとコラム

構築し続けてきたことに間違いはなかったと、感慨深いものがある。

「水」「土」「人」。最良の水づくりや健康な土づくり、トップランナー等の人づくりを、何よりも大切な基本中の基本として、徹底した売り込み戦略を展開してきた攻めの農林水産業の取組は、今や「地域経営」の取組にまで発展してきた。

「地域経営」を、ごく簡単に説明するなら、農村部における親村あるいは本村集落を単位として、地域の中核となる経営体で農業経営や6次産業化等をしっかりと進め、子供や高齢者、障害者も共同して育もうという仕組みである。

都市が元気になれば日本は元気になるという発想とは真逆に、農山漁村集落こそ、この国の人間と文化と食の「ゆりかご」であるという考え方であり、人口減少への対応のため、集落群を守り育む新しい仕組みづくりを進めようという施策である。

この国のゆりかごである集落群や、町や村が、元気に存在できているこそ、都市は存在できると自分は確信する。

先日、ある集落の秋祭りに行った。小さな子供たちが、続々と集まって来て、たくさんの子供たちを抱っこさせていただいた。

UJIターンの方々がこれまで以上に増えてくれて、自分たちの人生を青森の農山漁村で輝かせてくれることに、どんどんチャレンジできるように、今後もぶれずに先頭に立っていく決意である。

ちょっとした工夫で、健康ごはん!

だしのうま味で塩分カット!

シャモロック肉団子といかの煮物

一般のプロイラーよりも鶏肉のうま味成分が高い「青森シャモロック」

煮る

青森シャモロックは、鶏肉のうま味成分の含有量が多いため、濃厚なコクのある味わいで、だしがよく出ます。長時間煮てもうま味が保持されるので、煮物や鍋料理に最適。まろやかな味わいのため、微量の調味料とゆずなどで香り付けすることで、十分に味わいが深まります。

A [シャモロックのだし]

◎材料

シャモロックのガラ…1羽分
水……………10カップ
塩……………大さじ1
酒……………大さじ2

◎だしのとり方

①シャモロックのガラは十分洗い、熱湯をかけて余分な油をとってから、更に水で洗い適宜切る。
②①を鍋に入れ、③を加えて火にかける。
アクをとりながら30分~1時間煮出してだしをとる。

◎材料 ※材料は4人分です

里芋……………小8個
昆布……………適宜
いか……………胴1パイ
ゆず(千切り) ……適宜

[シャモロックの肉団子]

シャモロック胸肉(皮なし) 100g
塩……………小さじ1/6
こしょう……………少々
卵……………1/3個
酒……………小さじ1
生姜汁……………少々

Aのシャモロックのだし…2カップ

しょうゆ……………大さじ2弱
みりん……………大さじ1
砂糖……………小さじ2

◎調理法

- ①里芋は皮をむいて一口大に切り、塩もみしてからさっとゆでる。ゆでた後、十分水洗いし、ぬめりをとる。
- ②昆布は結び昆布にする。
- ③いかは皮つきのまま、1cmの輪切りにする。
- ④フードプロセッサーにBを入れて、ペースト状にする。
- ⑤鍋に、里芋・昆布とCを加えて火にかけ、ゆっくり煮含める。途中、④をスプーンで団子状にすくいながら加え、更に煮含める。
- ⑥⑤の汁が半分くらいになったら、いかを加え、更に煮含める。
- ⑦汁気を煮かためて仕上げ、器に盛り、千切りにしたゆずを散らして完成。

◎一人分のエネルギー 145kcal / 塩分 1.4g

「健やか力」アップ! 一口メモ

※「健やか力」とは、健康情報や医療情報を適切に利用し、活用する力をいいます。

だしのうま味で食塩摂取量を減らし「健やか力」アップ!

高血圧が続き、動脈硬化が進行すると、心筋梗塞や脳卒中等の命にかかわる病気を引き起こすリスクが高くなります。高血圧予防のためには、食塩摂取量を減らすことが大事。料理にだしを活用すると、しょうゆや味噌、食塩等の使用量が少なくて済みます。

◎青森県のだし素材と料理方法 (参考: 総合販売戦略課 味感を育むだし活事業)

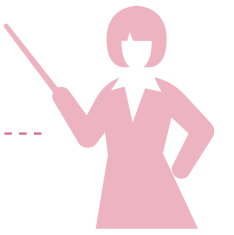
焼き干し	けの汁、煮物など	昆布	鍋、煮しめなど
煮干し	味噌汁、ラーメンなど	ごぼう	せんべい汁、炊き込みご飯など
しじみ	しじみ汁、ラーメンなど	青森シャモロック	鍋物、煮物など
ほたて	ほたての貝焼き味噌など		

◎家庭で測定した血圧の目安

収縮期(最大) 135mmHg 未満 拡張期(最小) 85mmHg 未満 ※病院で測定した場合の140mmHg/90mmHgに相当します。

レシピ開発・調理/管理栄養士 福するみ子

女性の力で企業や地域を元気に!



◎なぜ、女性の活躍が必要なのですか?

人口減少や経済のグローバル化など、青森県が直面するさまざまな課題に対応していくためには、企業や地域において、女性をはじめとする多様な人材が活躍できる環境をつくり、組織の創造力や柔軟性を高め、業績の向上、経済や地域の活性化へと結びつけていく必要があります。

県では、元気な青森県を創っていくために、意欲ある女性が個性と能力を発揮して、企業や地域の意思決定の場に参画して活躍できる環境づくりを進めていきます。

◎女性の活躍による具体的な効果・メリットは?

- 商品やサービスを選択するのは、多くの場合、女性です。消費者のニーズやライフスタイルが多様化する中で、生活者としての女性のアイデアやセンスを生かすことで売れる商品や新しいサービスの創出につながります。
- 仕事と家庭生活を両立する女性の視点や経験を仕事に生かすことで、職場・店舗の環境整備や仕事のプロセスの改善・効率化などにつながります。
- 女性が働き続け、活躍できる環境づくりは、男性も含めた職場全体の働き方の見直し、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現につながります。

詳しくは、県庁HP

◎女性の活躍を推進する県の取組

- 企業のトップの意識改革を図るためのフォーラム開催
- 企業において具体的な取組を促すためのガイドブックの作成・配布
- 管理職やリーダーを目指す女性人材を育成する「あおりハンサムウーマンセミナー」の開催

課長職以上の女性管理職が全体の21%、男女ともに働きやすい職場風土を醸成
株式会社みちのく銀行



平成26年度 内閣府「女性のチャレンジ支援賞」受賞

「農業の6次産業化」に女性たちが力を発揮
サンフェスタいしかわ友の会



平成26年度 内閣府「女性のチャレンジ賞特別部門賞」受賞

青少年・男女共同参画課 ☎017-734-9228

青森県職員の給与と職員数のあらまし



県では、人事行政を運営するに当たっての公正性・透明性を高めるため、人事行政の概要を公表しています。公表内容の中から、県職員の給与と職員数のあらましをお知らせします。

給与

職員の給与は、県内民間事業所の給与実態などの調査結果に基づく県人事委員会の勧告を受け、国や他の地方公共団体との均衡を考慮しながら、県議会の審議を経て、条例で定められています。

◎職員の初任給と平均給料月額状況

区分	学歴	初任給月額	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	大学卒	172,200円	334,700円	43.5歳
	高校卒	140,100円		
警察職	大学卒	187,500円	313,000円	39.6歳
	高校卒	158,100円		
高校教育職	大学卒	192,800円	378,700円	45.5歳
小・中教育職	大学卒	192,800円	392,200円	46.5歳
技能労務職	高校卒	137,200円	306,800円	48.2歳

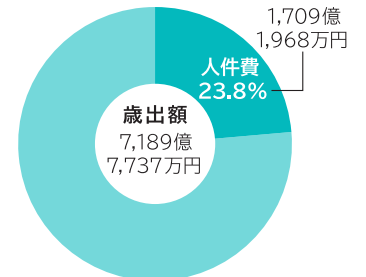
(平成26年4月1日現在)

◎知事や県議会議長などの給料・報酬月額状況

区分	給料・報酬の月額	備考
知事	1,016,000円	給料20%減額
副知事	873,000円	給料10%減額
県議会	議長	864,500円 議員報酬5%減額
	副議長	777,600円 議員報酬4%減額
	議員	756,600円 議員報酬3%減額

(平成26年4月1日現在)

◎人件費の状況



(平成25年度普通会計決算)

職員数

◎部門別の職員数の状況

区分	職員数		
	平成25年	平成26年	増減
一般行政部門	3,913人	3,926人	13人
教育部門	12,226人	12,017人	▲209人
警察部門	2,634人	2,639人	5人
公営企業等会計部門	1,078人	1,120人	42人
合計	19,851人	19,702人	▲149人

(各年4月1日現在)

◎定員適正化の状況

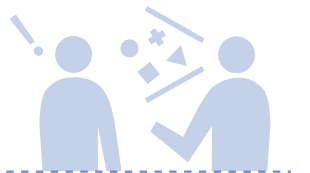
職員数については、引き続き執行体制の簡素化を図るため、目標を定めて計画的に管理することとしています。一般行政部門を例にとりますと、平成25年度から平成30年度までの6年間で60人以上を削減する計画に取り組んでいます。

詳しくは、人事課、県政情報センター、各合同庁舎の地域住民情報コーナーのほか、ホームページでもご覧になれます。県庁HP

人事課 ☎017-734-9047

アタタの声を県政へ

～「県政・わたしの提案」と「あおり県民政策提案(パブリック・コメント)」のご紹介～



◎県政・わたしの提案

県では、青森県をもっとよくするため、県民の皆さんからの前向きで建設的な提案をお待ちしています。お寄せいただいた提案は、知事が目を通し、県政を進める上での参考とさせていただきます。ぜひ、あなたも提案をお寄せください。

提案方法

☎ 郵送・FAXで提案する場合

〒030-8570 青森県広報広聴課「県政・わたしの提案」係
FAX 017-734-8031

📄 県庁ホームページの入力フォーム・電子メールから提案する場合

※提案に対する回答等に利用するため、お名前、ご住所、電話番号は必ず記載ください。
※お寄せいただいた提案と県の回答は、内容を要約し、個人が特定されないようにした上で、ホームページ上に掲載しています。(年代・性別・居住市町村名は掲載されません。)

◎あおり県民政策提案(パブリック・コメント)

県では、県が策定する計画や制度等の案について、県民の皆さんのご意見を募集し、寄せられたご意見を参考にしながら最終的な案を決定するために、パブリック・コメント制度を行っています。

現在意見を募集しているものや実施予定のもの、すでに意見募集した結果は、県ホームページのほか、各合同庁舎の地域住民コーナーや県政情報センター(県庁北棟1階)でもご覧いただけます。

提出方法

郵便、電子メール、FAX、その他意見募集を行う担当課が定める方法で提出することができます。

詳しくは、県庁HP



※例えば以下の計画等について意見募集を行いました。

- ・青森県いじめ防止基本方針(案)
- ・オープンデータあおり戦略(案)
- ・青森県迷惑行為等防止条例の一部改正の骨子(案)

広報広聴課 ☎017-734-9138



北東北3県・北海道ソウル事務所

工藤所長の

ソウルからアンニョンハセヨ〜

皆さん、アンニョンハセヨ(こんにちは)! 今月号は人口問題の特集なので、韓国の人口について調べてみました。2012年(平成24年)の韓国の人口は5,000万人。一方、1人の女性が生涯に産む子どもの平均数を示す合計特殊出生率は、2005年(平成17年)の1.08を底に、2012年には1.30まで回復しましたが、2013年(平成25年)は1.19と再び低下しました。日本は2013年で1.43ですね。合計特殊出生率が今の水準にとどまる場合、韓国の人口は2026年の5,165万人をピークに減少に転じ、2100年には2,222万人まで急減することが予想されています。韓国でも人口減少は大きな問題です。

さて、韓国では新年を旧暦で祝います。12月25日はクリスマス、1月1日は新年の休日ですが、日

本のような年末年始の休みはありません。2015年は2月18日から20日までの3日間が旧正月の連休で、土曜・日曜と合わせて5連休となります。クリスマスが近づいてくると、ソウルの街はカラフルに様変わりします。明洞地区では、ロッテ百貨店と新世界百貨店の2大デパートが、競い合うようにライトアップします。年末年始はデパートもバーゲンセールですから、ショッピングもお買い得です。もちろん、街角にはクリスマスツリーも飾られ、お店の装飾も豪華になるので、一見の価値あります。

韓国の冬は寒さが厳しいですが、年末年始のお休みには、ショッピングの後に、熱々の鍋料理でもいかがでしょうか。それでは、次回までアンニョヒケセヨ(お元気で)!



ライトアップされた明洞



青森・ソウル線でソウルへ、世界へ!

10月26日から、発着時間が変わりました。
水・金・日 週3便運航中

KE768 青森 13:55 → 仁川 16:55
KE767 仁川 10:30 → 青森 12:50

国土交通政策課 ☎017-734-9153

INFORMATION

あおもりインフォメーション

あおもりふるさと寄附金のご案内

- 県では、ふるさと納税制度による寄附を受け付けています。
- ◎皆様の「ふるさと青森を応援したい!」という想いを、電話、電子メール、ファックスでお寄せください。
- ◎法人からの寄附も受け付けています。
- ◎いただいた寄附金は、県の重点施策や東日本大震災からの復興支援のために活用します。
- 県外在住の方々、年末年始に帰省されるご親戚・ご友人の方々にも、ぜひご紹介ください。



詳しくは、県庁HP [ふるさと寄附金](#) [Q検索](#) 税務課 ☎017-734-9064

「命を大切にする心を育む 県民運動推進フォーラム」開催



「命を大切にする心を育む県民運動」を推進するため、フォーラムを開催します。香山リカさんによる講演のほか、子どもたちの夢や希望など未来への前向きな思いを綴った「未来へのメッセージ」最優秀作品の表彰式も行います。

- 日 時/平成27年1月24日(土) 13:30~
- 会 場/県民福祉プラザ(青森市中央3-20-30)
- ゲスト/香山リカさん(精神科医)
- 入場無料

詳しくは、県庁HP [命フォーラム](#) [Q検索](#) 青少年・男女共同参画課 ☎017-734-9226

大学奨学生募集

- 出願資格…平成27年4月に大学入学見込みの方で、保護者が青森県民であり、他から奨学金の貸与予定がない方
- 募集人員…90人
- 貸与月額…4万4千円
- 返還…無利子で、卒業後1年据え置き8年間で全額返還
- 申込・しめきり…平成27年3月に高校を卒業予定の方は、学校が指定する期日までに高校へ、それ以外の方は平成27年3月31日までに青森県育英奨学会へ、願書に必要な書類を添えて提出。

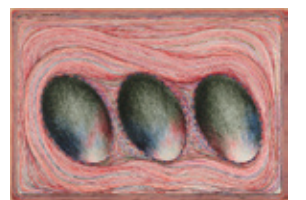


青森県育英奨学会(教職員課内) ☎017-734-9879

青森EARTH2014

「青森EARTH」は縄文に創造の原点をたずね、「土着」の意義を見直し、土(earth)に根ざした新しいアート(art)の形を青森の地で多角的に探るためのアートプロジェクトです。今年も青森ゆかりの画家・豊島弘尚の作品と写真家・松江泰治による青森、秋田を撮影した写真シリーズを軸に、縄文の遺物や美術館のコレクション、現代のアーティストの表現を組み合わせた展覧会を開催します。

- 会 期/平成26年12月2日(火)~平成27年3月22日(日)
- 会 場/青森県立美術館展示室
- 観覧料/一般510円、高大生300円、小中生100円



豊島弘尚「縄文の卵 II」1999年 青森県立美術館蔵

県立美術館 ☎017-783-3000

みなさんと県庁を結ぶ
県政
インフォ
メーション

テレビ

- RAB「LINK/青森県」(30秒スポット)
- RAB「大好き、青森県」(第三日曜日)17:00~17:15 (放送週が変更になることがあります)
- ATV「こんにちは、県庁です。」(月)10:00~10:55朝しやべりアゴラ
- ATV「みんなの県庁!」(第一土曜日)18:55~19:00
- ABA「メッセージ」(土)9:30~9:35

ラジオ

- RAB「青森県広報タイム」(月)~(木)7:30~7:35
- エフエム青森「あおもり・ふあん」(月)~(金)16:55~17:00
- エフエム青森「申吾のほっとチャンネル」(第一日曜日)7:00~7:30

新聞

- 「広報あおもりけん」毎月1日・16日 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

Ustream配信

- 「A-Stream」毎週火・金曜日 12:20~12:50

編集発行/青森県広報広聴課 ☎017-734-9137

〒030-8570 青森市長島1-1-1/県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>

※「県民だよりあおもり」は点字版・録音版も発行しています。ご希望の方は広報広聴課までお知らせください。

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり8.8円です。

県民だよりあおもりの印刷に係る電力2,964kwhは、県内の住宅用太陽光発電で発電されたグリーンな環境価値を活用し、グリーン化されています。詳しくは県HP [グリーン電力証書](#) [Q検索](#)